

目 次

はじめに	1
第一章 点字毎日と中村京太郎	
I 印刷機のうなりに幻をえがく	3
II 人と舞台	5
III 中村京太郎のアイデアと点字毎日の事業	8
1. 点毎懸賞文の募集	9
2. 盲学生体育大会	10
3. 盲学生雄弁大会	12
4. 点字教科書の発行	13
5. 模擬点字投票と普選講演会	14
IV 国際盲人社会事業会議出席	16
V 大会以後	20
第二章 はるかなる山の呼び声	
I 少年の頃	23
II 東京盲啞学校へ	25
III 普通科教員第1号	27
1. 正則英語学校	29
2. 英国留学の夢	31
3. 同窓会の運営と点字論争	32
第三章 台湾からロンドンへ	
I 台湾へ	34
II 湖の麗人	36
III 英語辞典の点訳	37
IV ロンドンへ	39

V	町田校長	42
VI	英国にて	43
VII	国際会議出席	46
VIII	鉄道運賃割引のこと	47
IX	祖国への提言	48
	1. 幼児教育の充実	48
	2. 初等教育の充実と義務制の実施	49
	3. 職業教育の充実	50

第四章 点字あけぼの新聞の発行

I	帰国	52
II	東洋盲啞教育会議	53
III	全国行脚	53
IV	同愛盲学校時代	54
V	点字新聞『あけぼの』の発行	55
VI	結婚	58

第五章 中村京太郎、その人と世界

I	点毎評壇	61
	1. 本来の盲界を顧みて	62
	2. まず盲教師養成機関の充実を図れ	62
	3. 奨学資金を設けよ	63
	4. 隠れたる盲人の友	63
	5. 鍼按科から物療科へ	64
	6. 高等教育問題	64
	7. 感心な盲学校卒業生	64
	8. 頭の使い方	65
II	盲婦人ホームの設立	65

III	家庭にあって	67
IV	中村流エチケット	69
V	タイプライターをめぐる	71
VI	70歳の一人旅	72
VII	晩年の生活	74
VIII	目を閉じて見るもの	75